

介護家族のつどい勉強会

## 実は奥が深い！ 目からウロコの『おむつ選び』と『快適ケア』講座

人には聞きづらいけど大切な、排泄とおむつの話。

2024年にユニ・チャームが行った全国調査では、20～70代の女性の約4割、男性の約2割の方が、月に1回以上の尿もれを経験しているそうです。

尿もれがあると、気になってお出かけしにくくなるなど、生活に支障も出てきます。

そこで今回、おむつの勉強会を行います。介護家族の方はもちろん、ご自身の今後に備えて聞いておきたいという方も大歓迎です！

おむつっていっぱいあって違いがよくわからない・・・。



尿とりパットからおむつに変えるタイミングっていつ？

おむつの当て方のコツを教えて！

ムシやにおい、お肌のトラブルの対応は？

毎日使うものだからお金も気になる！  
経済的に使うコツってある？

よく動く場合、ベッドで寝ている時間が長い場合・・・。  
状態にあわせたおむつ選びってどうしたらいい？

日 時：令和8年7月21日（火）10：30～11：30

場 所：長瀬町役場 大会議室

講 師：ウエルシア薬局長瀬店 飯塚 伯宙氏

申込み：令和8年7月17日（金）までに地域包括支援センターへ

無料、持ち物なしです。  
お気軽にどうぞ！

## 心配な時こそ、相談する時。認知症相談会があります。

「最近忘れっぽいけど、認知症なのか年相応なのかわからず不安」「認知症症状の対応に困っている」「介護保険サービスを使ってほしいけど、本人が嫌がっていてどうしたらいいか」など、認知症に関するご本人・ご家族からの相談をお受けします。

日 時：令和8年7月6日（月）個別相談（予約制・先着3名まで）

①13：30～14：20 ②14：30～15：20 ③15：30～16：20

場 所：長瀬町役場 小会議室2

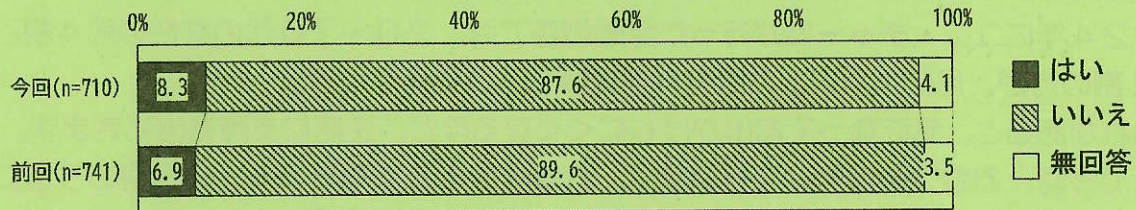
相談スタッフ：認知症初期集中支援チームチーム員3名；公認心理士（認知症疾患医療センター職員）・作業療法士（清水病院職員）・地域包括支援センター職員

申込み：令和8年6月26日（金）までに地域包括支援センターへ

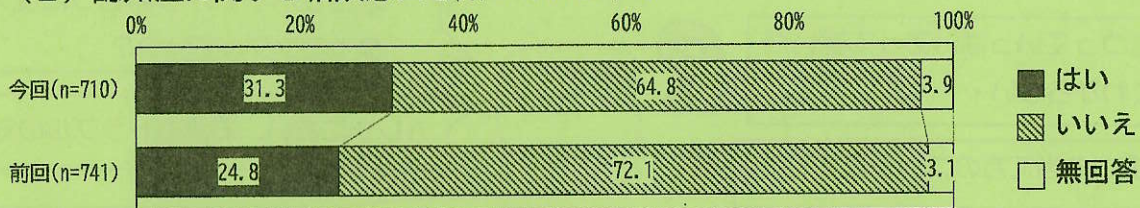


令和7年12月に「第10期長瀬町高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定するにあたり、高齢者の生活状況等や、地域の抱える課題を把握するために「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施しました。65歳以上の要介護認定を受けていない方を対象として、無作為抽出で1,000人にアンケートを郵送し、710人から回答をいただきました。今回は、認知症に関するアンケート結果を紹介します。

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

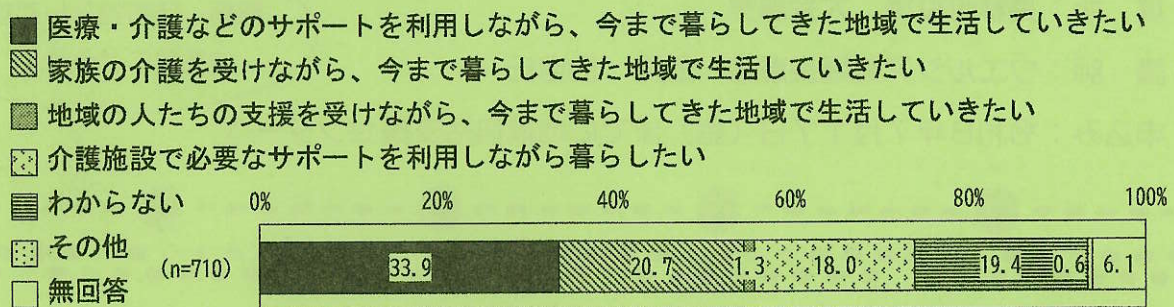


(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか



知っている相談先については、「町役場」が57.2%で最も多く、以下「地域包括支援センター」が53.2%、「かかりつけ医」が47.7%、「医療機関の認知症専門医」が18.9%となっています。

(3) もし、あなたが認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか



認知症の症状がある、または家族にいるとの割合は1割未満ですが、前回（令和5年1月実施）より増加しています。相談窓口について3割程度の人を知っていますが、依然として過半数の人が知らずにいます。認知症になった後の生活について、「住み慣れた地域で生活したい」とする回答が多くありますが、「わからない」とする回答も約2割となっています。紙面の都合でグラフは掲載出来ませんでしたが、必要な支援について尋ねた質問の回答は、相談窓口の周知や情報提供のニーズが高い結果となりました。全体として、住み慣れた地域で生活したい気持ちは強いものの、情報不足による不安がある状況であることがうかがえます。

地域包括支援センターでは、保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士がお電話、訪問など様々な形で、ご相談に応じます。また、定期的に専門家を招いて認知症相談会も実施しています。住み慣れた地域で長く生活していけるよう、気軽にご相談ください。

<高齢者の方、認知症に関する相談先>  
長瀬町地域包括支援センター  
電話 66-3111 (内線 142/143) FAX 66-3564

長瀬町役場 福祉介護課内にあります

